

1 研究主題

「学びに夢中になる子どもの育成～教科の本質にふれる授業づくり～」＜2年目＞

2 主題設定にあたって

〈 これまでの研究から 〉

本校では、平成25年度から児童につけたい力を考え、自作教材（大魔王シリーズ）を活用した取り組みを行ってきた。平成30年度からは「主体的に学びを生かそうとする児童の育成」を研究主題とし、算数科における自作教材を活用した学校研究で、算数に対して肯定的に学習する児童が増えた。

昨年度から、「学びに夢中になる子どもの育成」を研究主題にし、これまでの学校での取り組みを生かしながら、すべての教科・領域で学校研究をすすめてきた。どの教科・領域でも、じっくりと学ぶことのできる課題に取り組むことで、夢中になって学ぶ姿が見られるようになり、研究授業以外でも子ども自身が夢中になって学んだと感じることのできる時間をもつことができた。

「教科の本質にふれる授業づくり」を行い、ただ楽しいだけでなく児童につけたい力を考えた授業づくりをすることで、確かな力になるよう実践をしたい。昨年度の研修から学習指導要領に示されている各教科の「見方・考え方」が「教科の本質にふれる」につながると考え、それをもとに授業づくりを行い、教科の本質にふれる授業について考えていきたい。

〈 児童の実態から 〉

本校の児童は、指示されたことなどにはまじめに取り組むことができ、ほとんどの児童が、学習は大切で将来役に立つと考えている。しかし、自分で判断し行動すること、主体的に考えを伝えたり、批判的に捉えたり、様々な考え方を見つけたりすることが苦手である。また、学習してすぐは内容について理解しているが、長期的な理解につながらないことも見られる。

昨年度の学校研究を通し、学力の低い児童も授業に参加しようとする態度が見られるようになり、授業では友だちや教師と関わりながら課題を解決しようとする力がどの児童にもついてきた。友だちとともに課題を解決することで、自分の成長を感じた児童も多かった。しかし、一人でわかるまでやってみたり、自分なりにもう一度取り組んだりする児童は少ない。また、ふり返りに対する意識がまだ低い状況にある。

これから子どもたちは時代の様々な変化に向き合い、他者とともに課題を解決していく力を身につけていくことができるよう、児童が夢中になる、教科の本質にふれることのできる授業実践を行っていきたい。

3 授業改善の視点

視点1 児童が夢中になって学べる課題になっていたか。 ・児童の実態を把握しての課題作成と提示（大きな課題） ・教科の特性や単元構成を考えた課題。 ・児童が自ら追求したくなる課題、考えを深めたくなる課題 ・教科書の課題を一工夫した課題	視点2 学び合いを通して、学びを深めていたか。 ・児童同士の学び合い、試行錯誤を大切にする。 ・教師は、子どもたちの学びを深めるためのコーディネートをする。（グループから全体へつなげる、児童を様々な視点で観察する） ・学び合いを深めるためのツールの活用。（例：思考ツール、タブレット等）	視点3 ふりかえりを通して、児童は、変容を実感できたか ・ふり返しを通して、自己の変容を実感できるようにする。 →自己肯定感の高まりにつながるように （教師の励まし、児童同士の交流） ・子どもと教師が評価を共有する。（1時間で、単元で等） ・家庭学習と連携し、ふりかえりの時間を確保する。
---	---	--

日常的な研修・実践

日々の授業の改善（学び合いを意識した、授業づくり）

学級開きから、学び合う風土づくりをする。

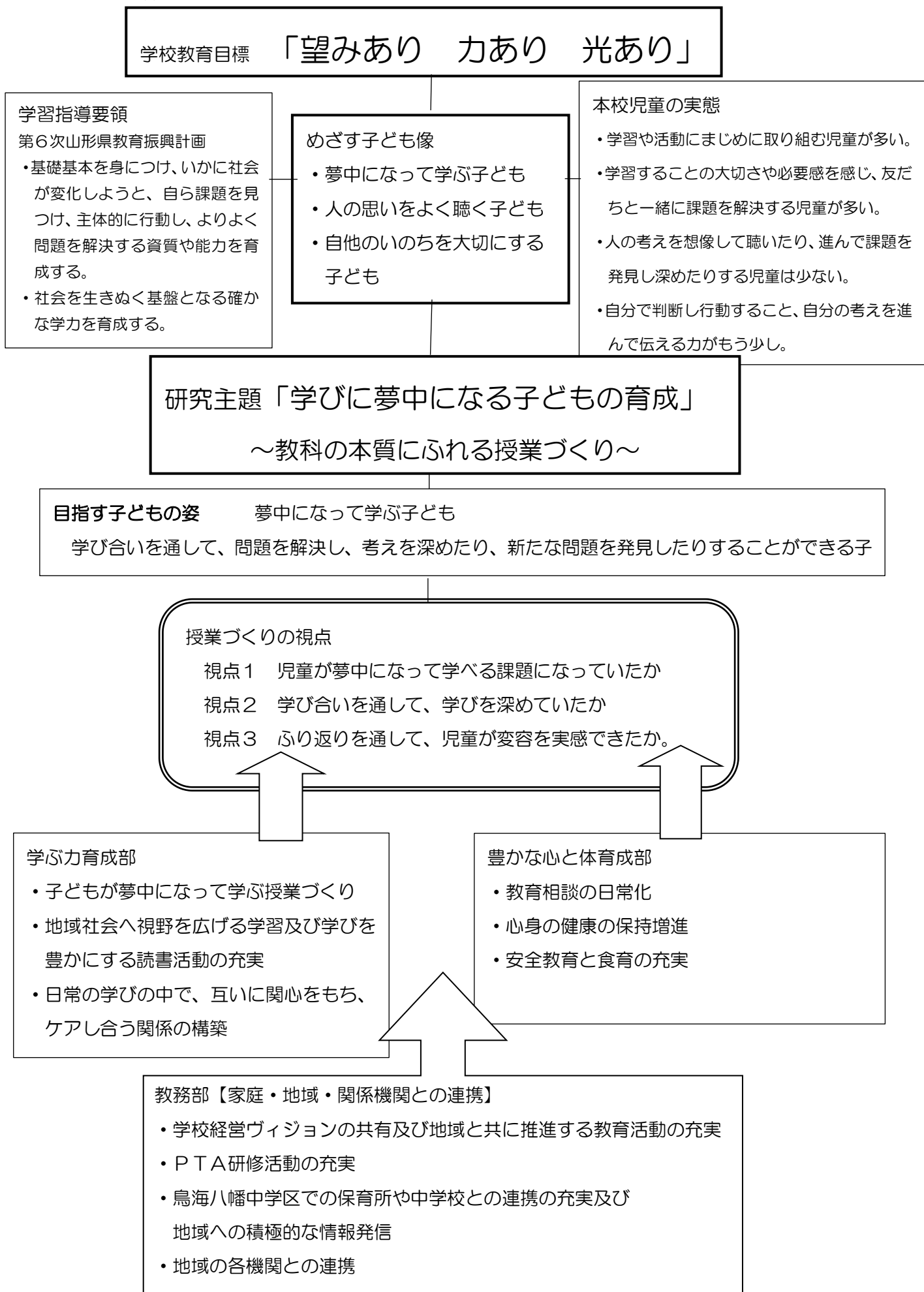
普段から教師はお互いの授業を見合い、教師も学ぶことができるようにする。

様々な研修会、他校の授業研究会への参加とフィードバック

今年度は…

- ・印刷室の教材交流、研修フィードバック
- ・各自、研究テーマを設定し実践を積み上げる。

4 研究の全体構想図



5 令和4年度 学校研究推進計画 予定（案）

月	日	曜	内容	授業者
4	5	火	研究推進委員会 今年度の研究の方向性と重点 授業づくりの視点	
4	28	木	第1回学校研究全体会 今年度の研究の方向性と重点 授業づくりの視点	
5	16	月	学区全体研修会	
各自研究のテーマ設定 → 実践①				
8	24	水	事前研①	
9	9	金	第1回校内授業研究会 森田先生来校（大学生の授業）	全学年通覧 ① ②
実践①の振り返り → 実践②				
11	11	金	事前研②	
11	18	金	学区授業研究会（鳥海小）	
11	25	金	第2回校内授業研究会 市教委	全学年通覧 ① ②
12			学校研究のふりかえり 児童・教師のアンケート	
1	23	月	事前研③	
2	3	金	第2回学校研究全体会、 校内授業研究会の成果と課題来年度の方向性	
2	8	水	第3回校内授業研究会 森田先生来校 ＊単元研究公開	全学年通覧 ①
1年間の振り返り				
3			研究のまとめ提出 研究紀要完成・関係機関への送付	

ふりかえりやアンケートをまとめたものに授業研究会の指導案を合わせたものを作成する。

6 校内授業研究会の持ち方

授業者は、自分が考える「教科の本質」について考え授業づくりを行う。

- ・事前研では、共に授業を作るという視点で、自分だったらと考え、取り組むようにする。

①子どもと同様に、子どもの気持ちで取り組む

②教師の視点で、どのような授業にすると子どもたちが夢中になって学ぶかを考える。

- ・授業を参観しながら、写真や動画で撮影する。

撮影する視点 子どもが夢中に切り替わった 子どもが夢中→ダウン
教科の本質にふれているところ

- ・事後研究会はグループごとに（参加の人数によって編成します）

撮影したものを提示しながら、

「夢中になって学ぶ・教科の本質にふれる」ということについて考える。

どんな手立てがよかったか。

どうすればさらによかったか。自分ならどうするか。

- ・研究授業の日、課題についてや、学び合い、ふり返りの在り方など、日常の実践をしている中で感じていることについて意見交換を行う。
- ・児童の「めざす姿」が授業を通してどうなったのか、教科の本質にふれるとはどうなのかを児童の表情や言葉と児童の「ふりかえり」などをもとに明らかにしていく。
- ・参観者は、事後研後に写真資料を使い、ふり返りをまとめる。（授業研で学んだこと）
→1年間記録（ストック）し、教師自身も変容を感じられるようにする。
→自分の学級の普段の様子もできる範囲で記録し、児童の変容に目を向けられるようにする。

7 令和4年度学校研究組織

全 体 研 究 会

研究推進委員会

校 長	高橋 千尋
教 頭	庄司 真由
教務主任	門田 美佳
研究主任	信夫 里美
研究副主任	尾形ひとみ

1 学年担任	細谷 仁	2 学年担任	尾形ひとみ
3・4 学年担任	門田 美佳	5 学年担任	渡邊 圭亮
6 学年担任	信夫 里美	マイスター支援員	佐原 郁代
教 頭	庄司 真由	養 護 教 諭	菅藤 京子
支 援 員	佐藤 直美		

* 参加の人数に合わせ、グループを編成し、取り組んでいく。